

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生（特別研修生。以下「特研生」という。）が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

「自治大学校研究部でどんな仕事をするん？」マネジメントコースへの派遣にあたり、職場上司やお世話になった方々への挨拶の際、このようなことを聞かれるのではと想定。

しかし、そのような会話はあまりなく、叱咤激励の意味も込めてだと思うが、「コロナで大変やけど頑張ってる！」、「コロナで大変な時期にほんま（本当）に東京に行くん？」など、新型コロナウイルス関係ばかりの会話が・・・。

新聞等による連日の報道により、私自身もいわゆる新型コロナウイルス疲れだったため、ただでさえ、新たな環境での仕事面や新生活面の不安があった中、一層不安が増してきたのが本音。だが、「何とかなるだろう！」と自分自身に言い聞かせて、地元を離れる。

しかし、本当にマスクがない。もっと早くから用意しておけばよかったと今更ながら後悔。幸い、去年ストックしておいたものが一定程度あったので、持参したマスクが無くなる頃には、落ち着いてくれればと切に願っている。

特研生として着任後、当校においても、年度初めの顔合わせ会（懇親会）が中止となるなど、全体的に自粛モード。当面は、不要不急の外出を控えざるを得ず、寮部屋で過ごす機会の方が多くなるだろう。着任後すぐに、佐々木校長からお薦めのあった本をできる限り読み、さまざまな知識を得たいと考えている。

さて、令和2年度の特研生は10人。全国各地から派遣され、1年間通じて、業務や研修、生活を共にするので、仲良くなり、連帯感が生まれてくるのだと思う。各地域が抱える行政課題を共有し、解決策を熱く議論し、派遣元自治体に戻って、今後の業務に生かしていきたいと思いながら、着任早々、4月2日にこの「つぶやき」を書いている。

最後に、「どんな仕事をするん？」に対する回答だが、自治大学校からの情報発信の作成や、自治実務セミナー執筆の段取りのほか、新たに他の研修機関との連携の企画等に携わることとなり、校長をはじめ、校長補佐や研究部長、教授のご指導のもと、これまで県庁生活では体験できない有意義な時間を過ごしたいと思う。

(M.H)

自治大学校正門の風景



寮部屋の様子

